

1987年12月号

ろくおん通信

第16号 1987. 12. 10発行

盲人情報文化センター

録音製作係

烏帽子岳～槍ヶ岳縦走記 (その3)

渡辺典子

三俣小屋～槍肩ノ小屋

8月4日 いよいよ今日は槍にとりつく日。お弁当を持ち、4時半出発。天候よし。今日の御来光は山の稜線からである。三俣蓮華岳(2841m)の裾を過ぎ、穂高の山塊、乗鞍、御岳を遠望し、双六小屋に着いたのは七時半頃。朝食は山小屋で作って貰ったお弁当、御飯の上で川魚がごろりと横になっている。この小屋は裏に大きな雪渓があるので、水は豊富でタンクから溢れ出ている。ポリタンを一杯に満たし、顔を洗う。この時、昨日メロンを下さった三人が到着。会話の中で年長の方が、「関さん」と言うことがわかった。それからは私達二人は「天狗の関さん」と言った。それ程までに身軽で足が速いのである。純朴でいて頼もしそうな好青年と、話し言葉の優しさからその人柄の忍ばれるお嬢さんが一行なのである。またどこかで会うことを約して別れる。誰かが美味しそうに桃を食べていたのを思い出し、雪渓の水で冷やした桃缶を買う。500円也。傘岳の優しい形を後ろにして、いよいよ槍の西鑿尾根にとりかかる。1時間半余り歩き大休止をとる。リュックサックに入れていた桃缶を食べる。日はかんかん

照っていたのに缶詰は冷たいままで、その味は何ものにも替えがたい美味しさ、甘いジュースと柔らかな果肉がたまらない。谷を隔てた向こうの草原に茶色の動くものが見える。雷鳥があんな所にいるわけではない、とっていると、その動物は雪渓に入っていく、四足である。猿だ、それも子連れのようなのである。そのうちグループで内紛が起こったようで、キャッキョウと言う鳴き声で猿と言うことがはっきりした。もう少し近付くと、そこそこに十数匹見受けられた。100m以上も先にいた若者のグループが「何が居るんですかー?」。「猿、猿なんですよー」と、持ち前の大声で私。なん



と彼等は走って見える所まで引返して来て、珍しいものに会えたと喜んで、シャッターを盛んに押す。私は持っていたピーナツを殆ど一袋、登山道から投げてやったが、猿達のために良かったのか悪かったのか？

傍らの岩に“4.8k”と書かれている。平地ならば一時間余りの道程である。千丈沢乗越にかかった頃から雲行があやしくなってきた。切立った斜面からガスが湧いてくる。おっかなびっくりで岩場を回り、鎖に身を託してよじ登る。石ころばかりの斜面をくねくねと、1600、1500と100mずつ減っていく数字を楽しむに、あえぎながら歩いていく。下って来た人が、小屋を出て15分だと励まして下さる。少し歩いては休み、歩いては休み、少しずつながらも確実に前進はしている。0.5kとある、と言うことは山小屋まで後500m。時計は11時55分、ならば正午の時報と共に目的地へと頑張る。”ポップポーン” それ小屋だ、とうとう槍の小屋に辿り着いたのである。650名収容の山小屋は流石大きい。部屋が決りリュックを降す。ガレ場を登りながらしきりにカレーが食べたいと思った。セーターを着こんで食堂に行く。ラーメン・うどん：500円、ビール：500円、カレー：800円、缶コーヒー：300円。カレーを食べて落ち着いた頃には、天候は悪くなる一方。天狗の関さん達と再び会った時は、ガスはもう雨に近かった。小屋の前で記念撮影をして、お互いに住所を交換する。長野市の方だった。槍の頂上は岩を積み重ねた大きなお握りのようである。天候はよくない、今登っておくか、明日の朝を待つか選択を迫られる。夫の決定で両具に身を固め登り始めるが、雨は本格的と

なってくる。鉄梯子や岩に打込んだくさびや鎖を頼りにじわじわ登る。ガスで見えないが下の方はどうなっているんだろう。足を滑らせたらきっと真逆様などと思うと、震えてくる。もう少しで頂上と思った時、上の方で声がする。突風が吹いて危険なのでもう降りるよにとのことである。致し方無し、引き際も大事である。ここまで来ながらと言う思いがないでもなかったが、断念して引返す。

夜になるとビデオテープで山の歴史が紹介された。誰が、何時頃、どんな目的でこんな山に登ろうとしたのか、道々ずっと考えていたことに、見事答が出されたのである。

天明のころ、播龍と言う僧が自らの信仰を深める為に登り、道を開いたとの事である。かの有名なブロッケン現象も、弥陀の来迎と見たようだ。

夜になり風雨はますます強く、うなりをあげている。明日は上高地に下りる予定だが、果たして大丈夫だろうか。3000mを越す地点にある山小屋は吹きつける風にじっと耐えているようだった。明日は明日の風が吹く事だろう、思い悩まないで眠ることにしよう。

完

「ボランティア友の会の意見を聞いて」 「最近の校正表より」は紙面の都合で、今月はお休みさせていただきます

《マイ・ディアー、木村様》

吾木 香

「来週もね!!」ラッシュの人ごみに押されながら、車輦に乗りこむ、か細い彼女に声をかける。「お疲れさま!!」

愛用のショッピング・カーが重すぎて、足腰を痛めてしまったという、キャシヤなTさん。彼女は、私の大切なペア録音の相棒です。

「あなたにピッタリの人よ。」と、ペアを組ませてもらったのは5年ほど前ですが「ケンキョデ、ヤサシクテ、カシコイヒト」というのが印象です。それからというもの、私の思いもかけなかった入院期間を除いて、ほんとにセッセと肥後橋通いを続けさせていただいています。

なぜ、こんなに続くのでしょうか。正直いって、しんどい日もあります。調査や下読みに、一日使いますし、突発的行事(家族の病気や、慶弔など…)があると、一週間が狂ってくるので、時間のやりくりが大変なのですが、充実した一日が持ちたくて、相棒や、仲間達に逢いたくて、テープ図書

うっかりミス

を作りたくて、やって来ます。

校正表を見て、「校正なしだって!」「わあ、ありがとう」「よかったね」「あっ、こんな簡単な間違ってる」「ごめんね、見落としてて」

彼女の本は、私の本。私の本も、彼女の本。二人の連帯責任で出来上る本、本、本。

調査や、読み方の解釈、説明文の書き方、アクセントまで、相談にのってもらって、私は本当に、大助かり。読み方の方は、上品で、知的で、判りやすく…こんな良い、お手本を毎週聞かせてもらえて。

でも、私は知っているのです。彼女が努力している事を。病気にならないように、いろんな治療を受け、予防をし、目が疲れないよう、テレビなどを制限し、体力を保つために、お楽しみの旅行も断った事を。

でも、時たま、気の合ったお仲間達と行く散策は、人一倍よろこんで仙人になった彼女。また行こうね。

語句	誤	正
電球	でんとう	でんきゅう
種々の	かずかずの	しゅじゅの
傑作を提げて上京	かかげて	さげて
1200人を数えた	こえた	かぞえた
寝具	やぐ	しんぐ
黄白色	きはくしよく	おうはくしよく
食べくらべ	くいくらべ	たべくらべ
本拠地	こんきょち	ほんきょち
澄明	とうめい	ちようめい

-----お知らせ-----

◎年末年始の休館と業務のお知らせ

休館日は12月27日(日)～1988年1月4日(月)です。

- ・12月23日(水)は日本ライトハウス職員研修会のため全館休館させていただきます。
- ・12月26日(土)は全館清掃のため全面休館
- ・1月5日(火)は午後より日本ライトハウス本部で新年の行事がありますので午前中のみ業務とします。

☆1月録音技術研究会のお知らせ

日時：1月20日(水) 13:00～15:00

場所：6F ボランティア・ルーム

テーマ：「録音図書校正基準(案)」

日本盲人社会福祉施設協議会より「録音図書校正基準(案)」が提示されました。今回はこの校正基準の説明を行います。

☆1988年1月個人ケアの予定

- | |
|-----------------------|
| 1. 9 (土) 13:30～ |
| 1. 12 (火) 13:30～ |
| 1. 13 (水) 13:30～水曜日例会 |
| 1. 19 (火) 13:30～ |

-----報告-----

☆第5回録音技術研究会(月例)の報告

今回は、4人の方の音訳した作品を聴きながら、「処理」や音訳テクニックなどについて勉強しました。

会話のところで余りに声色をつかい不自然になったり、「」の部分をきっちり強調してよむテクニックや、間の取り方などを学びました。12月も引続き医学書や専門書などの図や文章の読み方を実際に聴きながら勉強していく予定です。

-----お願い-----

☆原本の著者への問い合わせには注意!

原本の内容に対する問い合わせは、著作権などのからみもあり、後々問題となることがあります。個人の判断で著者や出版社に問い合わせをするのはやめて、必ず職員に相談して下さい。

☆履物にご注意ください

7階は一応絨毯をしいてありますが、これは靴音を防ぐためです。履物の中で歩くたびに音の出るものはスタジオ録音の妨げになります。

年末の一言

ついたての奥に隠れた一年でした。来年もよろしく願います。(村井)

7階のフロアを走りまわった一年でした。

万歩計でもつけようかしら。(谷垣)

今年は印刷屋の一年でした。求むボランティアの印刷工。でなければ来年も印刷屋。良いお年を。(清水)